

まつもと 公民館報

発行
2018
7/30

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プルルト



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 38

重要有形民俗文化財に指定されている 松本の七夕人形

松本の七夕行事

松本市の七夕人形コレクション45点が、昭和30年に重要有形民俗文化財に指定されました。その構成は、人がた形式、着物掛け形式、紙雛形式、流し雛形式の四つに分類されます。

七夕は月遅れの8月7日に行われ、6日の夕方に短冊に願い事や和歌などを書いて竹につるし、庭先に立てて季節の野菜を供えます。

松本市域では、一つの特徴がみられます。一つは七夕人形を飾ること。もう一つはホウトウやマンジュウを供えることです。

七夕の季節に人形を飾る風習が、いつ頃から始まったのか定かではありません。縁側や軒先に飾られた七夕人形は、松本の風物詩の一つです。かたちを変えながらも、未永く続いて欲しい年中行事です。



上手くできたよね！いよいよ点火

キャンドルナイト開催

松本市美術館を会場に、手作りの蜜ろうキャンドルを使って地球温暖化を考える催しが実施されました。

幻想的な雰囲気

6月22日に松本市美術館で、地球温暖化対策についての取り組みを考える「美術館のキャンドルナイト IN MATSUMOTO」が開催されました。

このイベントは、松本市地球温暖化防止市民ネットワーク(松本市環境政策課が事務局)と松本市美術館の共催で、地球温暖化に対して、私たちができることはなにかを考えるきっかけにする行事です。会場となった松本市美術館

中庭では、高さ約40センチメートルの竹筒製の蜜ろうキャンドル約50本が並べられ、次々と火がともされました。このキャンドルは、事前の講習会で子どもたちが作った約20本と、松本市寿さと山くらぶの指導で明善小学校の児童が作った約30本が並べられたものです。

楽しくも静かに

次第に夕闇がせまり、美術館の玄関と中庭にある草間彌生の作品とあいまって、幻想的な空間が出現し始めます。すべての竹筒蜜ろうキャンドルに火がともされた頃、「宇宙と地球と私たち美しい地球の未来のために」と題した「エコライフトーク」が始まりました。

講師は、気象予報士であり、長野県地球温暖化防止活動推進員でもある宮澤信氏です。「はやぶさ2」の話をタイミンク良く織り交ぜて、子どもたちにも分かりやすく、今地球で何が起きてい

るのか、このままだと地球はどうなるのかなど、地球温暖化に対して今すぐにでもできることをやっていかなくてはならないと訴えていました。講演に続いて、中庭南の通路をステージに「エコライブ」が始まりました。太陽光蓄電を電源としたLEDランプによる照明と、音源アンプのバイオリンとチェロの音



美しい弦楽器の音が流れ...

開催の背景

私たちの生活は、化石燃料の使用により大気を痛め続けていると思われまます。松本市街地の今年3月の月平均気温6・8度は、過去120年間で一番高く、同4月の月平均気温13・6度は、120年間で第3位の高さです。現在問題になっている地球温暖化は、私たちが生きている間でも変化が分かるような急激

な変化です。地球環境の悪化を止めるためには、自然エネルギーを増やす。そして、省エネ・節電・エコ行動によりエネルギー消費を減らす。対策の方向性はこの二つしかありません。小さいことですが、今回使用した蜜ろうキャンドルの燃焼で発生する二酸化炭素は、植物に吸収され、地球上の二酸化炭素を増やさないとのこと。こ

私たちにできることは

地球環境の悪化を止めるためには、自然エネルギーを増やす。そして、省エネ・節電・エコ行動によりエネルギー消費を減らす。対策の方向性はこの二つしかありません。小さいことですが、今回使用した蜜ろうキャンドルの燃焼で発生する二酸化炭素は、植物に吸収され、地球上の二酸化炭素を増やさないとのこと。こ

のようないひとを身近な取り組み重ねて、少しずつでも地球環境の改善につなげていきたいと思います。「電気を消して、やさしいひとときを…」忘れずに。



優しい光の蜜ろうキャンドル

ちよこつ 松本さんぽ

～コウノトリがやってきた～

5月28日の午前中、梓川の水田にコウノトリ1羽が降りたちました。この個体は、福井県越前市で2年前の5月にう化し、9月に放鳥されており、秋田～山形～新潟を經由して松本へ来たものです。愛称は「さきちゃん」で、定住が期待されましたが、6月28日に市内の水田で死亡が確認されました。

松本平では、5月28日に塩尻市内でトキ。続いて松本市内でコウノトリ。2種の国特別天然記念物が1か月の間に発見された珍しいケースでした。



(撮影:2018.5.30 梓川地区)



寿団地造成のころの航空写真(昭和40年代)

鉢伏山西麓に位置する寿台地区は、昭和40年代に開発された新しい街です。

新しき中に歴史あり 寿台地区

歴史探訪 探る松本 6

地区の現況

寿台地区は、寿・松原・内田・中山の4地区に囲まれ、平成30年6月1日現在、世帯数1401世帯、人口2941人、8町会で構成されています。

寿台の誕生

寿台地区は牛伏寺砂防ダム(昭和45年竣工)建設以前、大部分が桑畑でした。その扇状地を造成して誕生したのが寿台地区です。

市・県営住宅、分譲住宅が

混在する形で昭和41年から47年にかけて開発されました。総面積約45万平方メートル・住宅地約36万平方メートル・二千世帯規模で「寿団地」と呼ばれ、当時は水洗トイレ・都市ガス使用の、県下最大級の最新型団地として報道されました。

寿地区に所属していましたが、住民増加により昭和49年4月に、市では28番目の地区となり、同年11月1日から寿台と改称されました。

水みこし

8月の第一日曜日に開催されてきた夏祭りがあります。地区の職人さんが作った2基のみこしが、景気づけの水をかけられながら、町内を巡行します。

これは子どもたちの思い出作りにと始められました。もともと神社などのない地域なので、階段工などによる治水に苦労した「水」にちなんだ行事にしたそうです。



寿台夏祭り 水神輿

子どもたちと共に

寿台地区では、児童館や町会役員、地区や近隣高校のボランティアなど多くの力を結集して、世代間交流の行事を積極的に開いています。

特に、子どもたちの居場所づくりとして平成28年に始めた「寿台ハッピー食堂」は、憩いの場、学びの場となり、多くの子どもたちが参加しています。これは、平成29年(二財)児童健全育成推進財団が開催した「遊びのマルシェ」で、先進事例として取り上げられました。

他にも、高齢者に手ほどきを受けて試合に臨む「子どもゲートボール大会」や明善中学の生徒が当日の運営を手伝う地区運動会など、地区の絆を深めています。

わがまち自慢 第21回 東部地区 公民館講座

① 食育講座

本格インドの家庭料理

うら町はしご横丁に、3人掛けテーブル2つの、(自称日本一)小さな北インド家庭料理店があります。そのインド人店主を招き「豆カレーとチャパティ」講座が開催されました。

② 歴史講座

映画「姉妹」の上映会

この映画は、松本の叔母の家に下宿した姉妹(野添ひとみ・中原ひとみ)の成長物語です。昭和30年に公開されました。



撮影地となった松本の、当時の街並みや人々の様子などが次々と映し出され、懐かしく思うとともに、その後の変化を感じられる講座でした。

地産地消のかんたんレシピ

信州名物

『塩丸イカの茗荷キュウリ和え』

イカの塩分と茗荷の歯触りの相性が抜群!!

材料: 塩丸イカ、茗荷、キュウリ、削り節

1. 塩丸イカを水で塩抜きして胴を縦半分に切り、薄切りにする
2. キュウリと茗荷を輪切りにする
3. 混ぜ合わせて塩がなじんだら器に盛り、好みで削り節をかける

